

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 山口 知香枝

論 文 題 目 アトピー性皮膚炎の子どもの
家族インパクト尺度の開発

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 玉腰 浩司

名古屋大学教授 奈良間 美保

名古屋大学教授 浅野 みどり

論文審査の結果の要旨

アトピー性皮膚炎(以下 AD)の子どもの育児は、長期にわたる丁寧なスキンケア、薬物療法、食事制限などを要し、日々の育児において家族への影響が多岐にわたる。子どもへの影響(impact)、親への影響(impact)を各々定量化する QOL 尺度はいくつか開発されているが、家族全体への影響を包括的に評価する手段としての尺度は Dermatitis Family Impact(DFI)と Childhood Atopic Dermatitis Impact Scale(CADIS)のみである。CADIS は、DFI より項目数は多いが、より丁寧に生活の状況を把握できる優位性があり、原版の他イタリア版も開発されている。既存尺度との併存妥当性が検証されていないという指摘があるものの、AD の重症度により評価するだけでなく AD の子どもと親の情緒面の評価を充実させた尺度として注目されている。

本研究の目的は、単なる CADIS 日本語版ではなく、日本の文化を加味し国内で広く活用でき得る『アトピー性皮膚炎における家族インパクト尺度：Japanese Culturally Modified Version of CADIS(JCMV-CADIS)』を開発すること、JCMV-CADIS と CADIS 原版との比較から、日本における AD の子どもの家族インパクトの構成要素とその特徴を明らかにすることである。

本論文の新知見及び意義は以下の通りである。

- 1) AD の子どもの家族インパクト概念分析では、疾患が患児を含む家族システムに及ぼす事実上の作用であり、子どもの側面では【Symptoms】、親の側面では【Family function】【Physical fatigue】、両者に共通する側面【Daily life】【Activity Limitation】【Emotion】といった属性を含む「家族の QOL に与える影響のすべて」である。必ずしも Negative なものだけではなく、Positive Impact も抽出された。
- 2) 面接結果から抽出した 8 項目を原版に加え JCMV-CADIS 試案(53 項目)を作成し、AD の子ども(2-6 歳)の家族の調査結果 233 部(配布 621, 回収 270 : 回収率 37.5%, 最終解析数 233 : 回収中 86.3%) を解析した。その結果、子どもの側面【子どもの症状 9 項目】【活動制限とふるまい 3 項目】、親の側面では【対社会的な要因によって起こる思い 6 項目】【子どもの症状に伴って起こる思い 8 項目】【家族と社会機能 6 項目】【ケアの煩雑さ 6 項目】【日常生活管理の工夫 6 項目】の 5 因子を抽出し、JCMV-CADIS は原版とは異なる因子構造であることを見出した。
- 3) 最終的に 43 項目 (Child domain 12, Parent domain 31) の JCMV-CADIS を開発した。
- 4) JCMV-CADIS では、原版で問題点と指摘されていた既存尺度との併存妥当性を検証し、【日常生活管理の工夫】を除く 6 因子は妥当性 (併存妥当性, 弁別妥当性) と信頼性 (内的整合性, 再現性) が確認できた。【日常生活管理の工夫】では信頼性および弁別妥当性のみ確認できた。JCMV-CADIS 活用により、家族への影響の包括的評価に基づく育児支援必要性の判断や看護に寄与できる。以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。